

# 魚病と養魚技術指導

大島 展志・中村 幹雄・山本 孝二

県内の病魚の診断，治療と養魚に関する技術の指導を行ったので報告する。

表一 1 魚種別の指導項目，件数の一覧表

	魚病診断	治療	養殖技術	種苗生産	新規に養殖始める	放流に関するもの	計
マゴイ	4	件	2	1	2	2	11
ニシキゴイ	7		1	1			9
ニジマス	6		1				7
ヤマメ・アマゴ	7		1	1			9
フナ			1		2	1	4
アユ	1					1	2
ホンモロコ					4		4
ワカサギ						1	1
ウナギ			1				1
ドジョウ					1		1
ティラピア	1		4	1	2		8
タニシ					1		1
スッポン	2				4		6
一 般					3		3

※ 数字は試験場に相談に訪れられた件数

当分場が本年度行なった魚病診断，治療並びに養魚指導を表一 1にまとめた。

○本年度はティラピア，ホンモロコなど従来になかった新養殖魚種の養殖希望者が多かった。しかし，ティラピアの養殖においてはその生態により立地条件が難しく（冬期水温が20℃以上であること），またホンモロコはまだ全国でもその養殖経営は行なわれていないので，当分場ではそ

の養殖をすすめることは困難であった。

またスッポン養殖の希望者も多かった。

○疾病の面からみるとコイ、ニジマス、ヤマメそしてウナギ等に多くみられ、被害の大きかったのはコイ稚魚において発生した原因不明の浮腫症、ニジマス、ヤマメの仔魚期にみられた鞭毛虫、ヘキサミタス症であった。

○ほかに、寄生虫症（トリコディナ、キロドネラ、ギロダクチルス、イクチオフティリウス、ウオジラミ、イカリムシ）細菌性疾病（えら病、口ぐされ）真菌性肉芽腫症、スッポンのオタフク症などを診断、治療した。

○分場の多発する魚病に対応するため担当者を水産庁の疾魚診断技術者研修会に参加させた。

○本年度、県内にティラピア養殖の機運が高まったので分場が指導して、ティラピア協議会を発足させ、事務局を三刀屋内水面分場に置いた。